

つながるアウトリーチ 報告書

概要

コロナ禍により、今までよりも「困ったときに大人に相談する」ことが難しくなったケアリーバーに対して、「会いに行く支援」「困る前から関わる支援」を実施した。

今年度も、コロナの状況は時期によって大きな差があったが、私たちが訪問した際にも「誰とも会っていない」「他の人には相談できていない」と話す対象者も多かったため、課題や対象は概ね適切であったと考える。

また、感染状況により、私たちも会いに行くことが難しく、食べ物や日用品を郵送する活動に切り替えた時期もあった。これは想定外の活動ではあったが、遠方の対象者や外部機関からも依頼の連絡がある等、想像以上の効果があり、非常に好評であったため、今後も継続していきたい活動の一つである。

一方で、感染状況やアウトリーチ、支援機関との連携強化の活動により、今まで日常的に居場所を利用していた対象者に対して、日によっては来所を断らざるを得なくなったり、ゆっくり話を聞くことができない時もあった。現在、居場所にくる対象者よりもアウトリーチで私たちが会いに行く対象者の方が多くなってきているが、居場所という拠点を開けておき「いつでも来れる、話せる」という環境を作ることも大事であるとの考えから、年度途中から臨時スタッフの配置を実施した。

計画当初の目標値は概ね達成したものの、広島県内には私たちが繋がれていないケアリーバーが多く存在すると想定される。今後も居場所を提供しつつ、取り組みを拡大していくためには、人員強化が必須であると考えている。

実績

③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
若者（特にケアリーバー）が困窮せずに生活できることを目標とする。そのために以下の状態を目指す。 1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながるができる 2.若者が継続的に自立生活に必要な支援を受けることができる 3.若者が困ったときに緊急支援を受けることができる	①カモミール利用実人数 ②LINE利用回数 ③アウトリーチ実施回数 ④緊急対応実施回数 ⑤支援機関との連携回数 ⑥ボランティア登録者数 ⑦研修参加者数	（10か月） ①35名 ②540回（1ヵ月60回） ③90回（1ヶ月 10回） ④80回（4人×20回） ⑤180回（1ヵ月20回） ⑥2名 ⑦延べ50名（SV・VO・県内勉強会）	12月末現在（7か月） ①50名（142%） ②543回（100%） ③177回（196%） ④40回（50%） ⑤311回（172%） ⑥8名（400%） ⑦96名（192%） SV：4回実施 VO：3回実施延べ68名 県内勉強会：2回実施28名	概ね、目標値を超える成果を出すことができた。 LINE相談カードを作成し、訪問したこと、勉強会を実施したことなどから、支援機関からつながる対象者が増加した。また、食糧支援などを実施する中で、直接つながる対象者も増えつつある。そうやって、新しくつながった対象者には、ためにLINEを送り、会いに行き、交流を深めたことで、相談を聞くことができる関係を構築できた。対象者が抱える課題などがわかると、他の支援も必要となるため、支援機関との連携回数も増加した。このように、さまざまな動きが繋がったことで、目標達成に至ったと考える。



アフターケア事業所カモミール

〒720-0066 広島県福山市三之丸町6-5 三之丸ビル3F
TEL 084-959-3278 info@hiroshima-chamomile.jp



作
カ
リ
マ
シ
タ

活動

LINE相談カードの作成、配布



6月に、LINE相談カードと、つながるアウトリーチを説明するフライヤーを作成し、配布した。

県内関係機関を対象とした 連携体制づくりの研修



9月の勉強会を発端に、継続的にアフターケアにかかわる団体が集うアフターケア勉強会を開催することとなった。

アウトリーチの実施



緊急支援やアウトリーチ食費などがあることで、利用者と関わるツールが増え、困る前からつながり、困りごとを聞ける関係性を作ることができた。

緊急対応の実施



濃厚接触者となった利用者への食糧支援や、体調不良時の救急車での病院同行、仕事先での金銭トラブルの対応、住居喪失による生活保護申請など、さまざまな緊急対応を行った。

ボランティアの養成研修



延べ68名が参加、8名がボランティアとして登録した。また、登録には至らなかった方も寄付やSNS拡散などの形で協力していただける関係を作ることができた。

ボランティア活動



8名登録。1月から活動開始予定であったが、コロナ感染者の増加により、現在は活動中止中。

行政、支援機関などへの広報

主に活動前期に近隣の児童福祉施設や行政機関、民間支援団体などを直接訪問し、LINE相談カードやアウトリーチについて案内した。

関係機関との情報共有

個別の支援対象者のことやアフターケア勉強会、現在実施している支援（食糧支援など）について電話を中心に情報共有した。アフターケアの使い方がイメージしやすくなり、新規の相談が増加した。

SVの実施

先人として、また外部の立場として、SVに留まらず、ネットワーク会議や勉強会にも参加していただき、連携強化の重要性を説く発言をしていただけたことで、機関連携が促進された。

